

スーパーマーケット販売統計調査資料

2023年7月実績 速報版

6月実績 確報版

(2023年8月22日公表)

調査資料概要

【パネル 270 社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:前月販売実績を速報値として公表 確報版:速報値に精度の高い集計を加え確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較 既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮三部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜		惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタアベーカー、ファーストフード
		日配		豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム
		一般食品		調味料、瓶詰詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類
		非食品		日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具
その他		テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)		

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州地方・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄
北日本日本海側	北海道の日本海側とオホーツク海側(宗谷南部)、東北日本海側
太平洋側	北海道の太平洋側とオホーツク海側(網走・北見・紋別地方)、東北太平洋側
東日本日本海側	北陸地方
太平洋側	関東甲信、東海地方
西日本日本海側	近畿日本海側、山陰、九州北部地方
太平洋側	近畿太平洋側、山陽、四国、九州南部
沖縄・奄美	鹿児島県奄美地方、沖縄地方

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2023年8月22日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2023年7月実績 速報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	104,348,232	100.0%	105.0%	103.8%
食品合計	95,408,779	91.4%	105.5%	104.1%
生鮮3部門合計	34,147,975	32.7%	104.0%	102.7%
青果	13,805,043	13.2%	104.1%	102.9%
水産	8,916,204	8.5%	104.2%	102.7%
畜産	11,426,728	11.0%	103.9%	102.4%
惣菜	11,644,407	11.2%	106.4%	104.8%
日配	21,896,506	21.0%	107.5%	106.2%
一般食品	27,719,891	26.6%	105.3%	104.0%
非食品	6,843,954	6.6%	102.7%	101.9%
その他	2,095,547	2.0%	99.1%	98.4%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	14,249,767	43	105.0%	104.3%
関東地方	38,316,659	73	104.8%	103.2%
中部地方	12,735,730	53	106.6%	104.4%
近畿地方	22,893,235	44	104.2%	103.4%
中国・四国地方	10,670,084	34	106.0%	105.1%
九州・沖縄地方	5,482,757	23	104.7%	105.4%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	510,329	43	97.6%	101.5%
4~10店舗	4,507,305	86	102.1%	102.3%
11~25店舗	8,471,738	49	103.3%	103.0%
26~50店舗	18,521,469	46	105.6%	104.5%
51店舗以上	72,337,391	46	105.3%	103.8%

集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	102,327,519
総店舗数 (店舗)	8,382	店舗平均月商 (万円)	12,449
総売場面積 (㎡)	13,940,153	売場1㎡あたり売上高 (万円)	7.5

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2023年8月22日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2023年6月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	98,872,629	100.0%	103.9%	103.0%
食品合計	89,989,644	91.0%	104.5%	103.4%
生鮮3部門合計	32,933,673	33.3%	102.5%	101.4%
青果	13,375,909	13.5%	100.4%	99.4%
水産	8,272,098	8.4%	103.1%	101.8%
畜産	11,285,665	11.4%	104.7%	103.5%
惣菜	10,477,892	10.6%	105.9%	104.7%
日配	20,454,038	20.7%	107.2%	106.1%
一般食品	26,124,042	26.4%	104.4%	103.5%
非食品	6,700,635	6.8%	99.9%	99.1%
その他	2,182,392	2.2%	98.4%	97.7%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	13,345,155	43	103.6%	103.8%
関東地方	36,226,028	73	104.5%	102.9%
中部地方	12,074,436	53	104.7%	103.1%
近畿地方	22,286,540	44	103.2%	102.6%
中国・四国地方	9,931,913	34	104.6%	103.6%
九州・沖縄地方	5,008,557	23	101.8%	102.1%

保有店舗数別集計

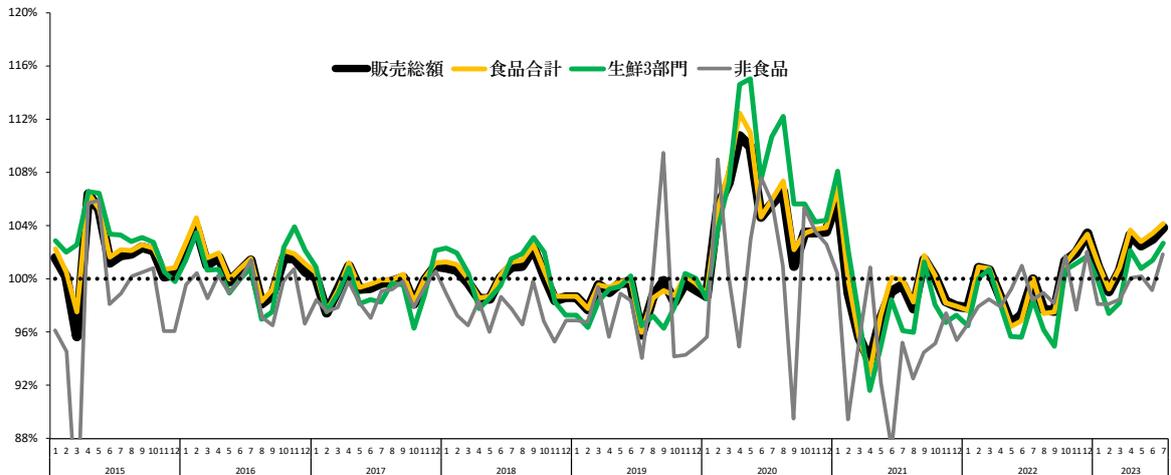
保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	507,502	44	96.0%	97.8%
4~10店舗	4,312,258	85	100.4%	101.1%
11~25店舗	7,974,905	49	102.2%	102.1%
26~50店舗	17,572,914	46	105.0%	103.7%
51店舗以上	68,505,050	46	104.2%	103.0%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	96,334,801	
総店舗数 (店舗)	8,379	店舗平均月商 (万円)	11,800	
総売場面積 (㎡)	13,948,180	売場1㎡あたり売上高 (万円)	7.1	

※売上高は税抜金額

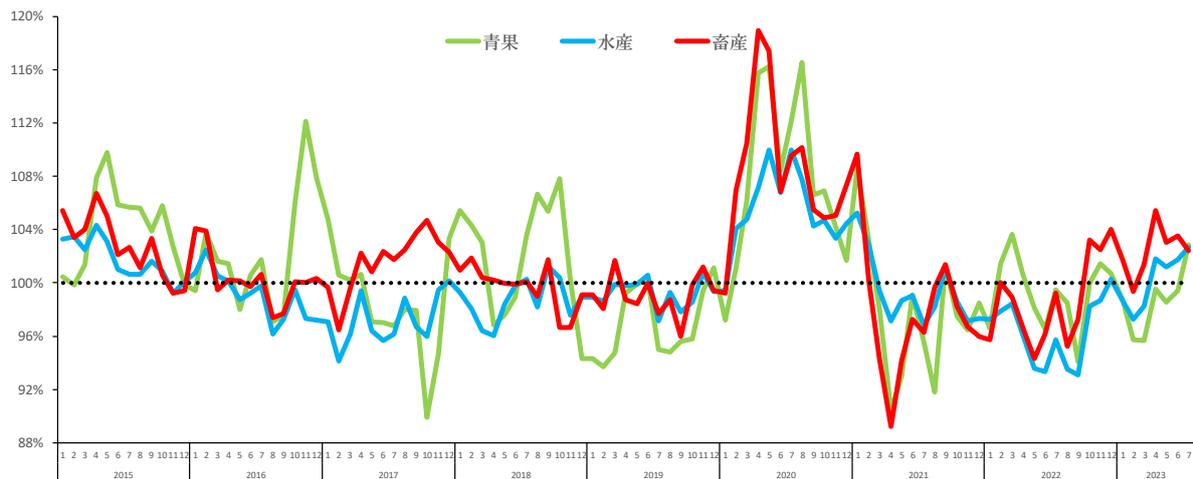
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計調査 前年同月比(既存店)推移 2015年1月～

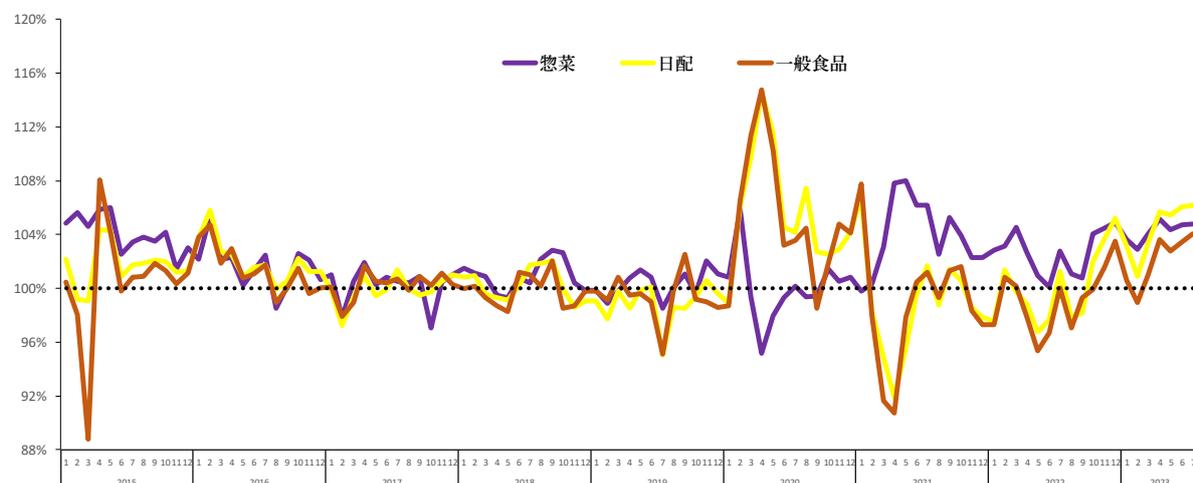
総売上高・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2023年7月実績は速報版

2023年7月エリア別気候状況

7月の気温：北・東日本でかなり高く、西日本で高かった

上旬：北日本でかなり高く、東日本で高かった。

中旬：北・東日本でかなり高く、西日本で高かった。

下旬：北・東日本でかなり高く、西日本で高かった。

2022年7月との比較：上旬は日本海側でやや低く、中旬は全国的にやや高く、下旬は北日本でかなり高くなった

	平年との比較 (°C)						今年と前年との差 (°C)		
	2023年7月 (今年)			2022年7月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	1.9	1.5	3.3	3.5	1.5	0.6	-1.6	0.0	2.7
太平洋側	2.8	2.5	4.5	2.9	1.3	1.4	-0.1	1.2	3.1
東日本 日本海側	1.4	2.1	2.0	2.9	1.0	0.4	-1.5	1.1	1.6
太平洋側	1.8	2.3	1.9	1.9	0.1	1.3	-0.1	2.2	0.6
西日本 日本海側	1.0	1.7	1.2	2.5	0.4	0.5	-1.5	1.3	0.7
太平洋側	0.6	1.3	0.8	1.5	0.2	0.4	-0.9	1.1	0.4

平年差



前年差



7月の日照時間：北・東日本太平洋側と東日本日本海側でかなり多かった

上旬：北日本日本海側、北・東日本太平洋側で多かった。

中旬：北日本日本海側でかなり少なかった。一方、東・西日本太平洋側で多かった。

下旬：北・東日本太平洋側と東日本日本海側でかなり多く、北・西日本日本海側と西日本太平洋側で多かった。

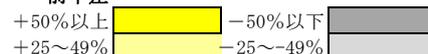
2022年7月との比較：上旬は日本海側でかなり少なく、中旬は東日本太平洋側と西日本で多く、下旬は全国的に多くなった

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2023年7月 (今年)			2022年7月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	117	57	147	161	73	125	-44	-16	22
太平洋側	137	86	187	120	65	129	17	21	58
東日本 日本海側	109	104	187	178	82	111	-69	22	76
太平洋側	132	137	175	120	66	135	12	71	40
西日本 日本海側	73	96	129	149	68	98	-76	28	31
太平洋側	90	115	121	110	71	106	-20	44	15

平年差



前年差



7月の降水量：北・東・西日本太平洋側で少なかった

上旬：西日本日本海側と西日本太平洋側で多かった。一方、北日本日本海側、北日本太平洋側で少なかった。

中旬：北日本日本海側でかなり多く、北日本太平洋側、東日本日本海側で多かった。一方、東・西日本太平洋側で少なかった。

下旬：北・東日本太平洋側と東日本日本海側でかなり少なく、北・西日本日本海側と西日本太平洋側で少なかった。

2022年7月との比較：上旬は日本海側でやや多く、中旬は太平洋側と西日本でかなり少なく、下旬は太平洋側で少なくなった

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2023年7月 (今年)			2022年7月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	65	211	33	19	124	27	46	87	6
太平洋側	66	154	16	65	190	93	1	-36	-77
東日本 日本海側	109	148	-	69	139	77	40	9	-
太平洋側	83	31	12	77	215	97	6	-184	-85
西日本 日本海側	177	70	22	46	186	26	131	-116	-4
太平洋側	116	23	29	127	152	70	-11	-129	-41

平年差



前年差



気象庁報道資料「7月の気候」を参考に事務局作成
※-は観測値なし

スーパーマーケット景気動向調査

2023年8月調査結果（7月実績）
（2023年8月22日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

8月調査（7月実績）結果概況

現状判断は2020年3月以来の3年4か月ぶりに50を突破

7月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DIの現状判断は、前月から+2.5の51.9と改善、2020年3月以来3年4か月ぶりに好不調判断の分かれ目である50を突破した。見通し判断は前月から+2.6の47.7となり、2か月連続で改善した。

経営動向調査では、売上高DI、収益DIともに上昇した。引き続き生鮮品仕入原価DIと食品仕入原価DIが過去最高水準で推移し、販売価格DIの高止まりが続いている。買上点数の減少幅が小さく、客単価DIが高水準を維持しているほか、来客数DIも上昇をみせた。

カテゴリー動向調査では、前月まで前年の土物相場高騰からの反動は続いていた青果DIが果物類の好調により大幅な上昇をみせたほか、水産DIも大幅に上昇した。総じて猛暑により季節商材の販売が好調であり、衛生用品特需の反動が続く非食品DI以外はプラス圏での推移が続いている。好調が続く惣菜DIは夏祭りやイベント需要の回復が後押しした。（最終ページに詳細掲載）

景況感調査では、現状判断を中心に改善傾向が続いており、景気判断DIと周辺地域景気判断DIで50を上回る水準に達した。（長期傾向についてはP11参照）

価格上昇による買上点数の減少傾向の影響が続いていたが、7月は猛暑による夏物商材の好調が販売を押し上げた。改めて気温や天候による食品需要の変化に対応できるスーパーマーケットの強みが認識される月となった。今後も不安定な気象状況が続く可能性が高く、消費者ニーズの変化に対する迅速な対応が買い上げ点数維持に向け、重要となるだろう。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月：51.9 (+2.5) 前月：49.4	消費者購買意欲DI 当月：48.3 (+2.2) 前月：46.1	周辺地域 競合状況DI 当月：46.5 (+2.1) 前月：44.4	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：50.3 (+2.0) 前月：48.3
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月：47.7 (+2.6) 前月：45.1	消費者購買意欲DI 当月：46.6 (+1.7) 前月：44.9	周辺地域 競合状況DI 当月：43.8 (+0.3) 前月：43.5	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：49.2 (+1.0) 前月：48.2
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月：11.6 (+4.3) 前月：7.3	客単価DI 当月：17.4 (-1.2) 前月：18.6	来客数DI 当月：-4.6 (+5.4) 前月：-10.0	
収益DI 当月：6.8 (+3.7) 前月：3.1	販売価格DI 当月：25.5 (+0.2) 前月：25.3	生鮮品仕入原価DI 当月：20.5 (+1.9) 前月：18.6	食品仕入原価DI 当月：23.7 (-1.2) 前月：24.9

カテゴリー動向

青果DI 当月：8.5 (+14.1) 前月：-5.6	水産DI 当月：10.3 (+7.3) 前月：3.0	畜産DI 当月：5.3 (-3.6) 前月：8.9	
惣菜DI 当月：16.2 (-0.3) 前月：16.5	日配DI 当月：18.4 (+2.0) 前月：16.4	一般食品DI 当月：10.9 (+5.4) 前月：5.5	非食品DI 当月：-0.8 (-0.3) 前月：-0.5

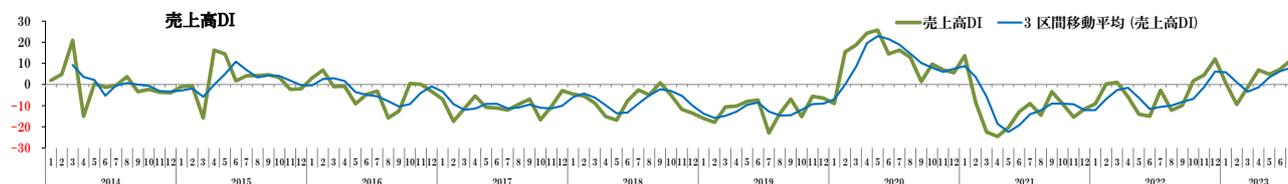
※DI値は前年同月との比較／（）内は前月DIからの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

当月上昇し、プラス幅を拡大

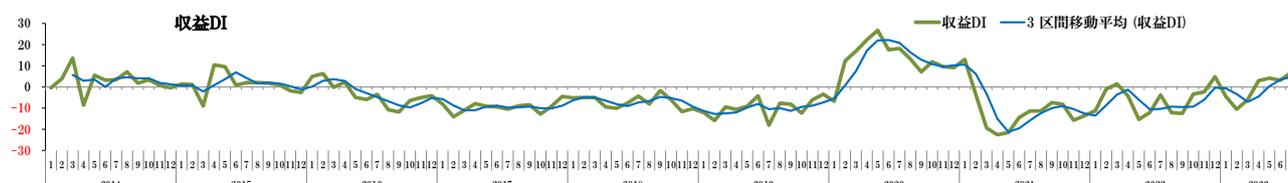
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	6.2	16.3	27.0	43.3	7.3	7.3
売上高 (当月)	4.4	12.6	27.7	42.8	12.6	11.6



2. 収益DI

当月上昇し、プラス幅を拡大

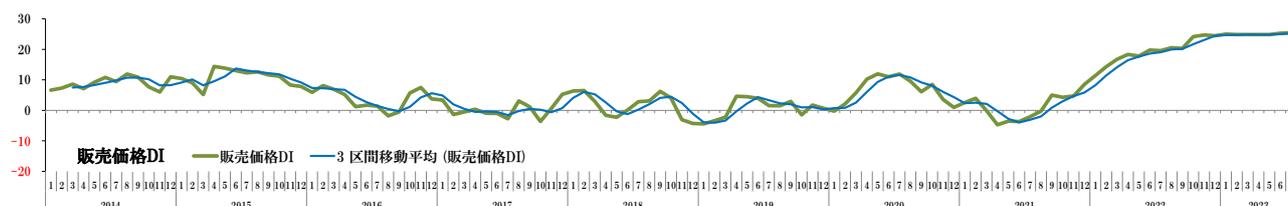
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	9.1	19.4	29.7	33.1	8.6	3.1
収益 (当月)	3.2	19.1	35.0	32.5	10.2	6.8



3. 販売価格DI

前月から横ばい、引き続き最高値付近で推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.0	1.1	11.4	72.6	14.9	25.3
販売価格 (当月)	0.0	0.0	12.0	74.1	13.9	25.5



4. 客単価DI

前月から大きな変化なく、高水準を維持

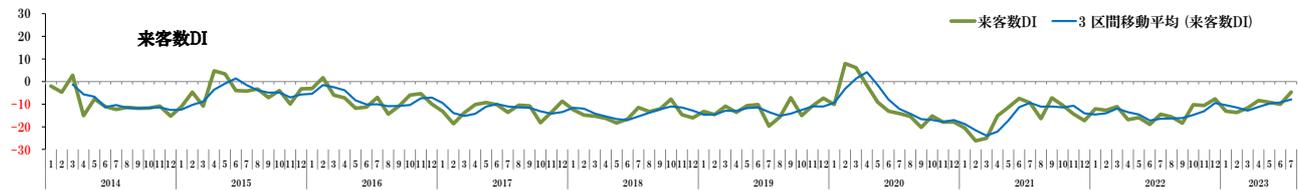
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	0.6	4.0	21.6	68.2	5.7	18.6
客単価 (当月)	0.6	4.4	25.9	62.7	6.3	17.4



5. 来客数 DI

前月から小幅に上昇し、マイナス幅を縮小

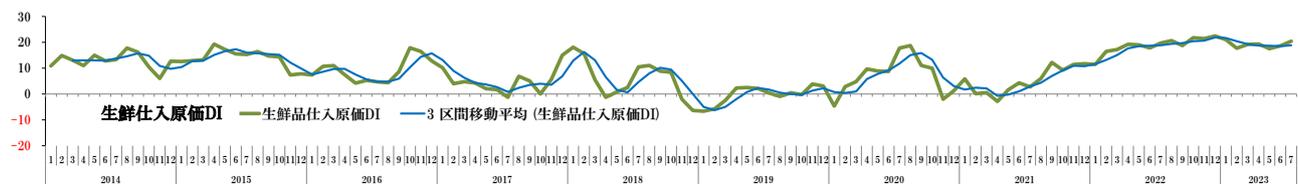
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	8.5	43.5	28.2	19.2	0.6	-10.0
来客数 (当月)	5.7	33.8	35.7	22.9	1.9	-4.6



6. 生鮮仕入原価 DI

前月から小幅に上昇、二桁プラス水準で推移

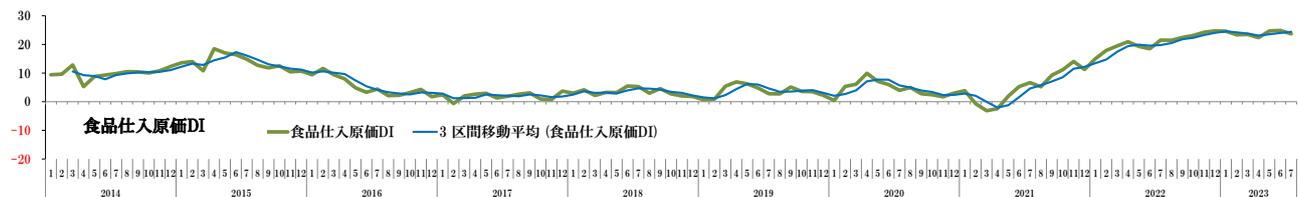
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	1.2	4.1	23.8	61.0	9.9	18.6
生鮮仕入原価 (当月)	0.6	4.5	17.5	66.9	10.4	20.5



7. 食品仕入原価 DI

前月から横ばい推移、27か月連続プラス圏で推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	1.2	2.4	13.5	61.8	21.2	24.9
食品仕入原価 (当月)	1.3	1.3	17.1	61.8	18.4	23.7

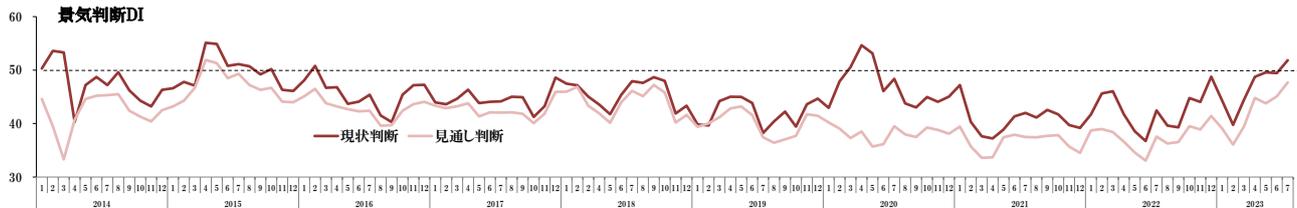


II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景況判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景況判断 DI

現状判断は小幅に改善し、2020年3月以来に好不調判断の分かれ目である50を突破

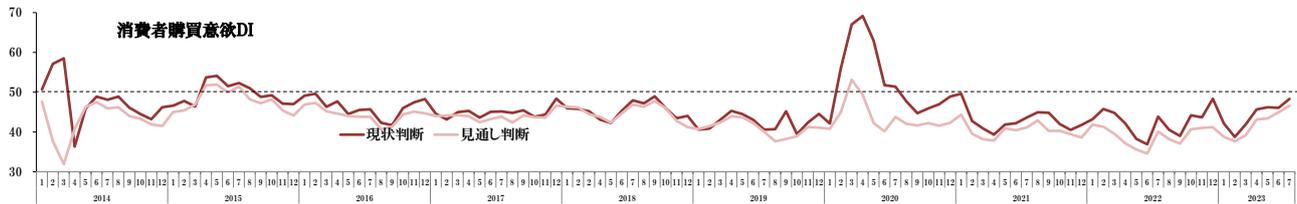
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景況判断 (前月)	2.8	17.4	59.0	20.8	0.0	49.4
【現状】景況判断 (当月)	1.9	11.1	64.8	22.2	0.0	51.9
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景況判断 (前月)	3.9	26.4	55.1	14.6	0.0	45.1
【見通し】景況判断 (当月)	3.1	19.1	61.7	16.0	0.0	47.7



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断、見通し判断共に小幅に改善

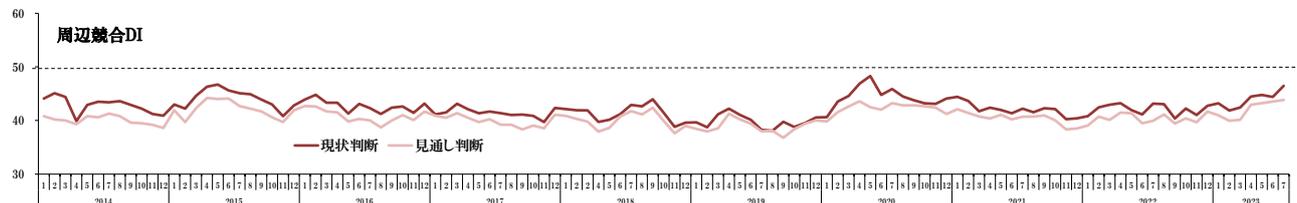
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	1.7	26.4	57.9	14.0	0.0	46.1
【現状】購買意欲 (当月)	1.9	19.1	63.0	16.0	0.0	48.3
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	1.7	28.1	59.0	11.2	0.0	44.9
【見通し】購買意欲 (当月)	1.9	24.8	58.4	14.9	0.0	46.6



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断は小幅に改善、見通し判断は前月水準

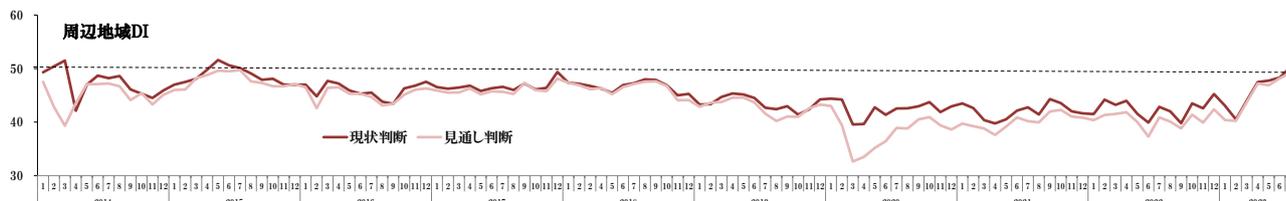
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	3.9	20.2	70.8	4.5	0.6	44.4
【現状】競合状況 (当月)	1.9	19.1	71.6	6.2	1.2	46.5
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	5.1	21.3	68.5	4.5	0.6	43.5
【見通し】競合状況 (当月)	3.7	24.1	66.7	4.3	1.2	43.8



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断は小幅に改善し、2015年7月以来に好不調判断の分かれ目である50を突破

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	2.2	14.0	73.0	9.6	1.1	48.3
【現状】地域景気 (当月)	1.9	8.6	76.5	12.3	0.6	50.3
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	2.2	17.4	66.9	12.4	1.1	48.2
【見通し】地域景気 (当月)	1.9	12.3	73.5	11.7	0.6	49.2

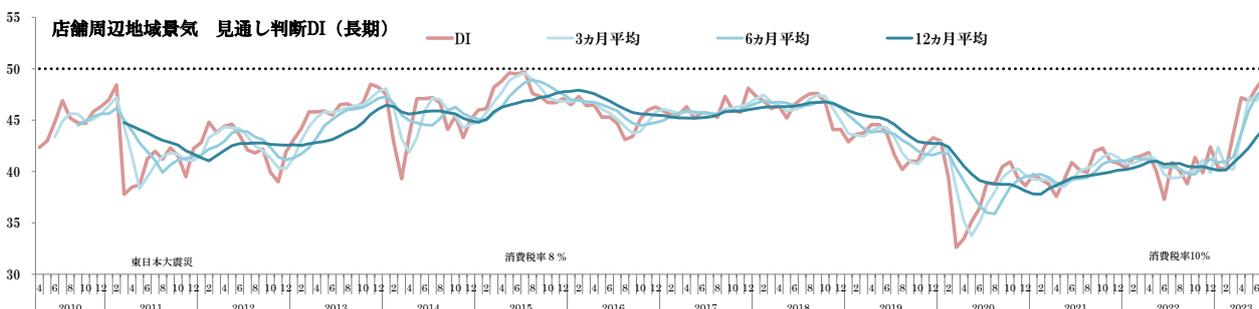
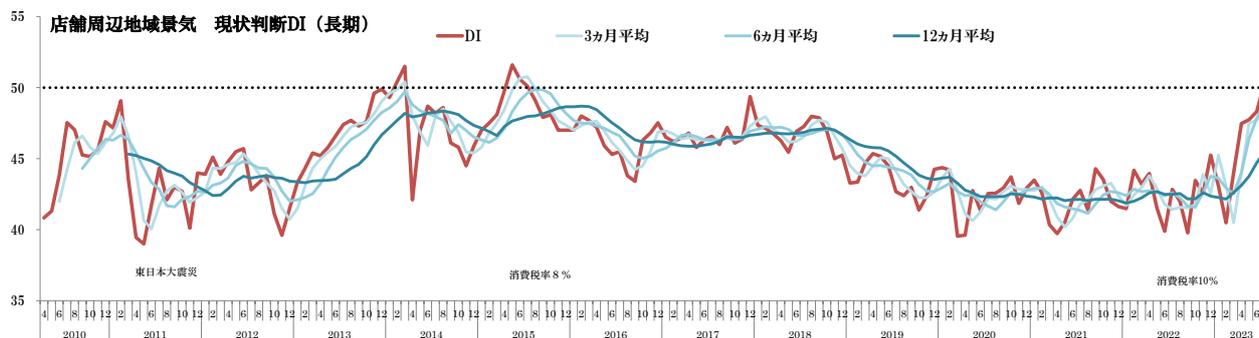


・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19年7月には現状判断DIは42.3まで低下した。

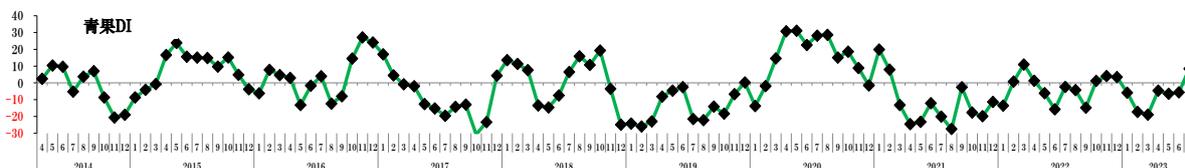
20年2月に大幅に悪化したのが、その後持ち直しの動きが続いた。21年以降は、感染状況により上下に振られる不安定な動きが続いた。22年4月以降悪化が続き、6月にはすべての移動平均線が下向きへと変化した。感染が再拡大した7月以降には一旦大幅な改善をみせた。その後23年3月以降は改善が続き、7月には判断の分かれ目である50を突破した。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：8.5（やや好調）

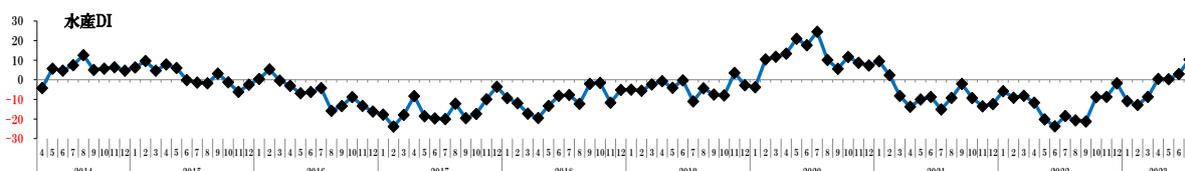
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	11.2	32.0	26.6	28.4	1.8	-5.6
青果（当月）	3.8	19.2	28.8	35.3	12.8	8.5



青果相場は安値傾が続いていたが、一転して相場高傾向となり単価上昇を牽引した。前年の土物類高騰からの反動の影響が残るものの、気温が高く推移したことでトマトやきゅうり、ブロッコリー、レタスなどのサラダ関連野菜、トウモロコシなど夏商材が好調に推移した。国産果実ではスイカや桃、ブドウなど旬の果物を中心に好調となり、カットフルーツも引き続き動きがよい。輸入果実も柑橘類、バナナやキウイフルーツが好調となった。

2. 水産DI：10.3（好調）

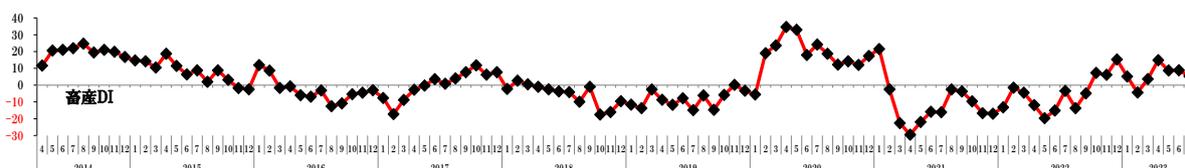
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	5.4	26.3	27.5	32.3	8.4	3.0
水産（当月）	2.6	14.8	31.6	40.6	10.3	10.3



引き続き燃料費や養殖飼料高騰により価格は高止まりが続くなか、まぐろやタコ、カツオなどの刺身類が好調週末の刺身盛り合わせの動きがよい。アジは水揚げ量が多く好調、バーベキュー用商材の動きもよい。うなぎは丑の日や予約販売は好調とのコメントが多いが、国産価格が高騰しており、輸入品に需要がシフトし、月間では伸び悩んだ店舗もみられた。冷凍品や加工品の動きは引き続きよいとのコメントがみられた。不振が続いていた貝類には回復傾向がみられた。

3. 畜産DI：5.3（やや好調）

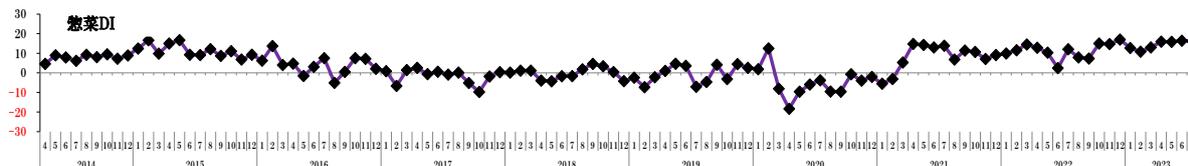
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	3.6	20.1	24.3	41.4	10.7	8.9
畜産（当月）	5.1	23.1	27.6	34.0	10.3	5.3



精肉全般で相場高が続いており買い上げ点数が伸び悩むなか、豚肉や鶏肉が比較的好調に推移した。牛肉はステーキや焼肉需要は好調だが、国産相場は高値が続いており輸入牛の動きがよい。週末のバーベキュー需要は好調に推移したとのコメントがみられた。豚肉では挽肉など普段使いの商品を中心に好調。国産にも回復傾向がみられたが、輸入品の動きがよい。鶏肉も高値が続いているが、ムネ肉を中心に好調に推移した。ハムやソーセージなどの加工肉は値上げの影響で好不調の判断がわかれている。売上高は確保できて利益が出にくい状況が続いている。

4. 惣菜DI：16.2（好調）

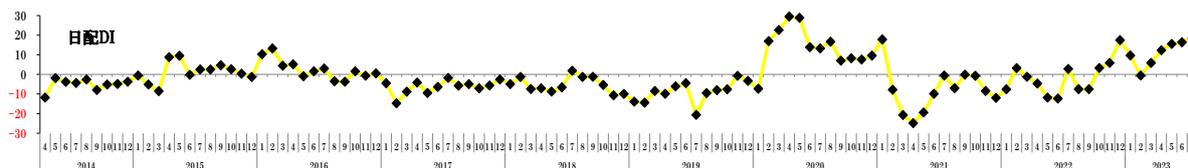
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	4.2	4.8	28.7	45.5	16.8	16.5
惣菜（当月）	3.3	8.5	23.5	49.7	15.0	16.2



気温が高くサラダ関連や冷やし麺類、涼味惣菜、焼鳥などのつまみ類の動きがよかった。家庭での電気・ガス代高騰や酷暑による調理敬遠を追い風に唐揚げやコロッケなど揚げ物類、夏祭りやイベントの再開による需要拡大も好調な販売を牽引した。昼食・夕食需要の回復が続いており、米飯類の動きがよい。土用丑の日も想定以上の販売となった店舗が多い。海外旅行客による特需を指摘するコメントもみられた。

5. 日配DI：18.4（好調）

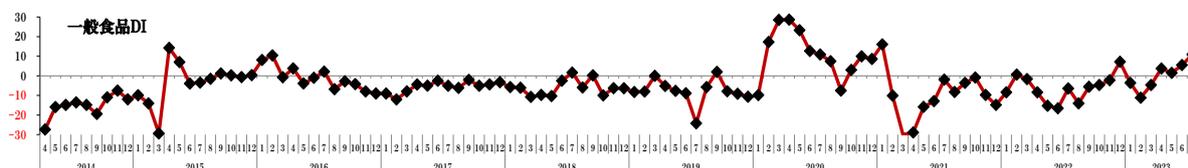
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	1.2	9.5	27.8	45.6	16.0	16.4
日配（当月）	2.6	6.4	25.0	46.8	19.2	18.4



値上げの影響が大きいカテゴリーとなっているが、全般的に買上点数の減少が収まり、一品単価上昇により、引き続き好調に推移している。気温が高く推移し涼味麺や涼味食材、飲料やアイス、デザート類の動きがよかった。価格高騰が続く鶏卵は、商品供給が回復傾向にあり、売上増となった。7月に価格改定のあったパンや冷凍食品は引き続き好調を持続。牛乳やチーズなど乳製品、チルド飲料が好調、和日配では納豆や豆腐、漬物などが好調となった。

6. 一般食品：10.9（好調）

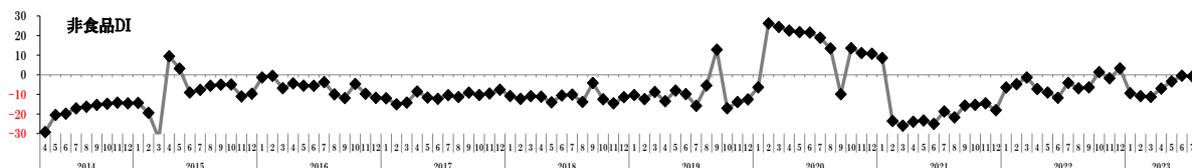
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	4.1	20.7	29.6	40.2	5.3	5.5
一般食品（当月）	5.2	14.9	26.0	39.0	14.9	10.9



全般的に販売価格上昇による買い上げ点数の減少がみられるものの、高い気温により、飲料や酒類、そうめん、つゆなどの季節商材、パスタソースなどレトルト食品の動きがよく、好調となった。菓子類は値上げの影響で単価が上昇し好調、食用油や調味料類は堅調に推移した。米類は回復傾向がみられる。ギフト関連は前年並み、前年の行政による支援物資需要の反動を受けた店舗もみられた。

7. 非食品 DI：-0.8（やや不調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	7.9	27.9	29.7	27.3	7.3	-0.5
非食品（当月）	9.2	30.1	26.1	24.2	10.5	-0.8



引き続きマスクやハンドソープ、除菌関連などの衛生用品は需要減少の影響を受けているものの、単価が上昇しているペットフードや家庭用洗剤などが好調に推移した。トイレトペーパー、キッチンペーパーなどの紙製品、カセットコンロやレジャーシートなど行楽向け商品も好調に推移。猛暑により日焼け止め、殺虫剤や虫ケア用品などの季節商品動きがよかった。ホームセンターやドラッグストアとの競合の厳しさを指摘するコメントがみられた。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調： ～ 20 好調： 20 ～ 10 やや好調： 10 ～ 0
 やや不調： 0 ～ -10 不調： -10 ～ -20 かなり不調： -20～

2023年8月調査（7月実績）キーワード TOP3

1. 猛暑による季節商品好調
2. 価格改定による単価上昇
3. 食品需要堅調

（参考）2022年8月調査（7月実績）キーワード TOP3

1. 気温上昇による夏物商材好調
2. 感染再拡大による巣ごもり需要の回復
3. 相次ぐ値上げ

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

7月実績速報版 162社
 6月実績確報版 178社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp